

団体名：カジノ（賭博場）誘致に反対する苫小牧市民の会
回答日：令和2年3月3日

要望書（回答）

苫小牧市長におかれては、苫小牧市民のためにご努力をなさっておられることに、敬意を表します。

昨年11月29日に、北海道知事はカジノを含む統合型リゾート（IR）誘致を先送りすることを表明いたしました。これは、北海道における7年以内のIR誘致を事実上断念したことを意味しています。

しかし、知事表明によってIR実現不可能となった現在の状況にもかかわらず苫小牧市長は、新年度予算にIR誘致を見据え、国際リゾート構想の推進に1,500万円の予算を提案しています。

IRはもともとカジノの収益なしでは成り立たず、賭博で街づくりを進めることは許されないと考えます。これ以上市民の大切な税金をIR関連予算に費やすことは、苫小牧市民にとって大きな損失になります。

少子高齢化と人口減に対する対策は、苫小牧市にとっても急務となっています。私たちも苫小牧市の発展と苫小牧市民の生活向上、苫小牧市の豊かな街づくりを願う点では、市長および市議会議員全員と一致しています。

だからこそ苫小牧市の発展と苫小牧市民の生活向上、苫小牧市の豊かな街づくりのために、IR誘致を中止して、新しい街づくりを目指していくべきであると考えます。

カジノを含むIRを誘致することで、集客がとられ北海道観光と北海道民の不利益になります。

カジノはギャンブル依存症患者を増やします。IRを誘致しないことが苫小牧市民・北海道民の命と暮らしを守る最善の方法です。

カジノは人の負けたお金で運営されるものであり、決して地元経済は良くなりません。IRを建設して、ラムサール条約登録地の貴重な自然環境を破壊しないでください。

カジノを含むIRによって治安は悪化し、マネーロンダリングの温床に悪用されます。

以上の理由から、子どもたちの未来の幸せを願う苫小牧市民たちの声を真摯に受け止めて、早急に少子高齢化と人口減への対策を行うため、一日も早くIR誘致を中止して新しい街づくりへ市政を転換することを要請いたします。

【回答】（総合政策部国際リゾート戦略室 担当）

本市は、人口減少・少子高齢化の時代が進む中、様々な社会的課題を克服し、今後も持続可能なまちづくりを続けていくために、成長戦略のひとつとして国際リゾート構想の実現にチャレンジしているところでございます。

I Rについては、北海道知事は、今回の区域認定申請は見送るとの発言とともに、I R誘致に挑戦すると表明しております。

この度、第6回市議会定例会に議案として提出いたしました令和2年度予算「国際リゾート構想推進事業」は、本市の国際リゾート構想の具現化に向け、市街地エリアの魅力を向上させ、新千歳空港や国際リゾートエリアからの交流人口を市街地に取り込むための都市再生プランを策定するものでございます。

本市といたしましては、引き続き、I Rを含めた国際リゾート構想の実現へのチャレンジを継続してまいります。